

指定管理者評価シート

事業名	こども劇場管理運営	所管課(電話番号)	子ども未来局子ども育成部 子どもの権利推進課(211-2942)
-----	-----------	-----------	-------------------------------------

I 基本情報

1 施設の概要			
名称	札幌市こどもの劇場 やまびこ座	所在地	東区北27条東15丁目1-1
開設時期	昭和63年(1988年)6月	延床面積	1495.37㎡
目的	人形劇、児童劇等の制作及び発表と制作団体の育成を通じて青少年の情操のかん養を図り、もってその健全な育成その他活動に資する。		
事業概要	人形劇等の制作・発表の場の提供、人形劇等の制作に関する指導ならびに資料収集・提供情報、講演会・展示会・講座		
主要施設	ホール、会議室(1室)、研修室(1室)、美術工作室(1室)、ロビー・展示室		
2 指定管理者			
名称	公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会		
指定期間	平成30年(2018年)4月1日～令和5年(2023年)3月31日		
募集方法	非公募 非公募の場合、その理由:札幌市こどもの劇場「やまびこ座」は、全国でも数少ない子ども専用劇場として、子どもを対象とした人形劇、児童劇等を専門に取り扱う施設であるという特殊性から、指定管理者には貸館業務にとどまらず、専門的知識や豊富な経験を有する適正な人材を確保し、指定管理者自らが人形劇、児童劇等の制作及び発表を行うこと、並びに担い手である制作団体を育成することが求められ、特に担い手の育成については専門性と継続した取組が不可欠であるため。		
指定単位	施設数:1 複数施設を一括指定の場合、その理由:		
業務の範囲	施設維持管理業務、事業の計画・実施業務、施設の使用承認業務等		
3 評価単位	施設数:1 複数施設を一括評価の場合、その理由:		

II 令和4年度管理業務等の検証

項目	実施状況	指定管理者の自己評価	所管局の評価																
1 業務の要求水準達成度																			
(1)統括管理業務	<p>▽ 管理運営に係る基本方針の策定</p> <p>「未来ある子どもたちの夢をはぐむ劇場づくり」札幌市こどもの劇場やまびこ座は、『人形劇、児童劇などの制作及び発表と制作団体の育成を通じて、青少年の情操のかん養を図り、もってその健全な育成その他の活動に資すること』を目的に設置された施設である。</p> <p>全国的にも珍しい子どものための専門劇場であり、子どもたちが人形劇や演劇などに親しみ、笑顔あふれ、夢を持って育つことを願い、運営を行うことを基本方針として策定した。</p> <p>▽ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績</p> <p>人形劇や演劇等、子どもたちのために舞台表現活動を行う団体に対しては、幅広く受け入れ優れた作品を安価で上演できることを劇場運営の基本方針とした。劇場職員は、観客である子どもとその家族を温かく迎え入れ、親しみやすい雰囲気を作ると共に、上演する団体の支援者となることに努めた。</p>	<p>・施設設置の理念に基づき、基本方針を策定した。市民にとっての劇場のあり方と、地域における劇場の役割を具体化し実践した。また、当方針を達成するため全職員が意識を1つにして、親しみやすい劇場作りに努めた。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4">施設の設置目的及び役割等を踏まえた基本的な方向性が明確化された方針となっている。</td> </tr> <tr> <td colspan="4">また、施設の特徴を踏まえ、平等利用とともに、専門性を伴いながらも市民目線のサービス提供が積極的になされている。</td> </tr> <tr> <td colspan="4">今後も施設の設置目的に基づいた施設管理を継続して行っていくこと。</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	施設の設置目的及び役割等を踏まえた基本的な方向性が明確化された方針となっている。				また、施設の特徴を踏まえ、平等利用とともに、専門性を伴いながらも市民目線のサービス提供が積極的になされている。				今後も施設の設置目的に基づいた施設管理を継続して行っていくこと。			
A	B	C	D																
施設の設置目的及び役割等を踏まえた基本的な方向性が明確化された方針となっている。																			
また、施設の特徴を踏まえ、平等利用とともに、専門性を伴いながらも市民目線のサービス提供が積極的になされている。																			
今後も施設の設置目的に基づいた施設管理を継続して行っていくこと。																			

<p>▽ 地球温暖化防止対策及び環境配慮の推進</p> <p>環境行動マニュアルに基づき、環境保全を意識しながら業務を推進した。 環境保全に配慮した行動を職員や利用者に周知し、エネルギー使用量削減の啓発に努めた。</p> <p>▽ 管理運営組織の確立(責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成)</p> <p>▼ 統括責任者を1名配置した。 ▼ 事務分掌、緊急連絡体制等を定めた。 ▼ 人材育成</p> <p>(1)派遣研修(劇場運営関係) 国内外の人形劇関係機関及び児童文化関係施設との連携を密にすることで、職員の専門性向上に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被災地支援活動「福島県への継続文化支援活動」 <ul style="list-style-type: none"> ①9月21日(水)～26日(月) 職員3名 ②1月13日(金)～15日(日)職員2名 ③2月24日(金)～27日(月)職員1名 ④3月23日(木)～27日(月) 職員3名 ・砂川人形劇創作体験プログラム <ul style="list-style-type: none"> 6月2日(木)～3月12日(日) 職員1名 ・「子どもと舞台芸術の大博覧会inKOFU」シンポジウム参加 及び子どものための文化施設の視察 <ul style="list-style-type: none"> 7月30日(土)～8月1日(月) 職員1名 ・北海道シアターカウンスルプロジェクト <ul style="list-style-type: none"> キックオフ・シンポジウム「文化芸術は誰のもの？」 <ul style="list-style-type: none"> 8月2日(火) 職員2名 ・地域別劇場・音楽堂等職員舞台技術研修会(北海道地域) <ul style="list-style-type: none"> 11月9日(水)～10日(木) 職員1名 ・障害のある人と芸術文化活動に関する大見本市参加 <ul style="list-style-type: none"> 2月10日(金)～11日(土) 職員1名 ・音響家技能認定講座ビギナーズコース <ul style="list-style-type: none"> 2月15日(水) 職員2名 ・第14回砂川人形劇フェスティバル <ul style="list-style-type: none"> 3月12日(日)職員3名 <p>(2)こどもの劇場・こども人形劇場職員研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員研修 <ul style="list-style-type: none"> (劇場の理解など) 4月7日(木) 職員5名 (障がい児の理解と支援) <ul style="list-style-type: none"> 12月6日(火)～7日(水) 職員7名 ・人形劇ゼミナール(人形劇指導研修) <ul style="list-style-type: none"> 4月27日(水)～7月18日(月) 職員5名 ・将来構想/広報戦略プロジェクト <ul style="list-style-type: none"> 通年 職員6名 ・刈払機取扱作業安全衛生教育 <ul style="list-style-type: none"> 6月7日(火) 職員3名 <p>(3)公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会職員研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職位階層別研修 ・目標管理制度 ・個人情報保護研修 ・評価者研修 	<p>・環境行動マニュアルに基づき、各エネルギー(電気、水道、ガス等)の節約に努め、施設運営を行った。</p> <p>・管理業務を適切に行うため、人形劇や児童劇、舞台、照明、音響に係る専門職員をはじめ、管理に係る職員を適正に配置し、組織を確立した運営を行った。</p> <p>・劇場職員として専門性を高めるため、児童文化関連施設や各種事業・研修会に職員を派遣し、職員一人ひとりが創造者として利用者と関わるべく多様な場で研鑽に努めた。</p> <p>・職員研修(人形劇ゼミナール)を児童会館部門の職員と共に行ったことで、子どもたちとの創作活動における指導のポイントや劇場の業務理解が深まった。劇場課職員・児童会館部門の職員双方にとって、施設利用者のニーズに応える市民サービスの向上につながったといえる。</p> <p>・2つのテーマにおける課題の洗い出しと業務改善を行うプロジェクトにより、劇場職員としての意識向上と、人材育成の両面から成果に結びつけることができた。</p> <p>・公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会職員研修計画に基づき、各職員の資質向上を目指した研修を実施した。</p>	<p>管理運営組織は適性に確立されており、緊急時の体制も整っている。 子どものための専用劇場という特異な施設であることを念頭においた十分な派遣研修が実施されているほか、児童会館職員と共に職員研修を実施することで、双方の市民サービス向上につながったことは評価できる。 加えて、指定管理者としてふさわしい資質を備えた職員を育成するためにも実施されている。 今後も継続して、職員の資質を向上させ、利用者満足等に反映されるように努めること。</p>
--	--	--

▽ 管理水準の維持向上に向けた取組

▼財団内のネットワークシステムを活用した情報共有、担当者間や所属職員間で定例の職員会議を実施し、管理水準の向上に努めた。

▼日常業務のブラッシュアップを行い、業務効率の向上を図った。また、施設点検による安全面の確認を随時行った。

▼職員によるプロジェクトを組織し、将来の劇場の在り方や広報戦略を検討した。

▽ 第三者に対する委託業務等の管理(業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認)

▼ 下記の業務について再委託を行い、当該契約に基づき、必要な指導、指示及び検査を行った。

	業務名	契約業者名	実施月	契約方法
1	清掃	東亜産業(株)	通年	指名競争入札:複数年
2	機械警備	帝国セキュリティ(株)	通年	指名競争入札:複数年
3	自動扉保守点検	三和シャッター工業(株)	8・11・3月	随意契約(特命):複数年
4	空調衛生設備保守点検	パナソニック産機システムズ(株)	通年	随意契約(特命)
		(有)ケンブラック	5～8月・1月	随意契約(特命)
		北菱産業埠頭(株)	8・2月	随意契約(少額)
5	オーバースライダードア保守点検	三和シャッター工業(株)	8・11・3月	随意契約(特命):複数年
6	消防用設備等保守点検	(消防用設備) (株)ヤシマ保全	4・10月	随意契約(少額)
		(防火対象物) (株)ヤシマ保全	10月	随意契約(少額)
		(自家発電設備) (株)ヤシマ保全	12月	随意契約(特命)
7	舞台吊物及び照明設備保守点検	(株)池下電設	7・1月	随意契約(特命)
8	舞台音響設備点検業務	(株)池下電設	7・1月	随意契約(特命)
9	除排雪	(有)阿部組	12～3月	随意契約(特命)
10	自家用電気工作物保安全管理	大崎電気管理事務所	通年	指名見積合せ:複数年
11	塵芥収集	(一財)札幌市環境事業公社	通年	随意契約(特定)
12	建築基準法12条に基づく点検	(非常照明) (株)ヤシマ保全	10月	随意契約(少額)
		(機械換気) 道民防災コンサルタント(株)	11月	随意契約(少額)

・財団内の他部門との情報共有や協働実施を行い、より質の高い事業展開に結びつけることができた。

・施設の良好な維持管理のため、事前に承認を得た業務について専門業者への再委託を行った。

▽ 札幌市及び関係機関との連絡調整(運営協議会等の開催)

開催回	協議・報告内容
運営協議会 (第1回) ※書面開催	・令和4年度事業報告(上半期) ・セルフモニタリング報告(上半期) ・事業や運営についての意見集約
運営協議会 (第2回) 3月15日	・令和4年度事業報告(下半期) ・セルフモニタリング報告(下半期) ・事業や運営についての意見交換
<協議会委員> 札幌人形劇協議会代表、東区市民劇団オニオン座代表、やまびこ座読み語りの会会員、小樽商科大学特任名誉教授、札幌市子ども未来局子どもの権利推進課長、札幌市こどもの劇場館長、札幌市こども人形劇場館長	

利用者説明会 12月1日	・施設利用、劇団育成支援事業について ・新型コロナウイルス感染症対策について(劇場ガイドライン改訂等) ・公演スケジュール調整 ・各劇団の近況報告
-----------------	--

▽ 財務(資金管理、現金の適正管理)

- ▼ 資金管理については、指定管理業務、自主事業ごとの区分経理を実施している。
- ▼ 金銭等の取扱いについては、当財団が定める処務規定及び財務規程、金券等取扱要領に基づき、適正に経理事務を行った。
- ▼ 当財団における内部監査の実施や、公認会計士による外部監査を導入している。

▽ 要望・苦情対応

- ▼ 「迅速・適切・真摯・平等」で「利用者の立場に立つ」対応を心掛けた。
- ▼ 意見箱を設置し、日常的に市民の声を聞くことができる環境を整えた。(令和4年度の意見箱への要望・苦情は0件)

▽ 記録・モニタリング・報告・評価(記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施)

- ▼ 業務実施に関する記録、帳簿等の整備、記録保管に努めている。(業務日誌、設備点検記録、事業記録、経理書類、現金出納簿等)
- ▼ 劇団及び観客、事業参加者に対し、アンケート調査を実施し、常に市民からの声に耳を傾けている。

業務財務検査 3月9日	・業務検査 ・財務検査
----------------	----------------

・運営協議会を設置し、委員の方へ事業実施状況などの報告を行い、施設運営についての意見交換を行った。

・11月に予定していた第1回運営協議会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため書面開催に変更した。第2回運営協議会では、今後の事業方針や事業について説明し、今年度の取組について高い評価をいただくことができた。

・12月に実施した利用者説明会では、劇場からの連絡の他、各劇団からの近況報告を行った。利用者との相互理解の場とすることができた。

・現金の取扱いについては、複数職員による確認を行い、金銭事故防止に努めた。適切な取扱いを行うことができた。

・意見箱へご意見や苦情を受けた場合、職員間で内容を共有して原因分析を即座に行い、苦情の低減に努めるよう体制を整えて備えた。苦情対応はなかった。

・セルフモニタリングにより自己評価を行い、今後の事業運営に繋がった。

・札幌市による業務・財務検査を受け、業務改善に努めた。

運営協議会や利用者説明会を実施し、利用者のニーズ把握に努めており、評価できる。引き続き、関係機関との連携を図り、より良い施設運営につなげていくよう努めること。

業務・財務検査の結果、記録・帳簿等の整備、保管、事業等の報告について、適正な事務処理がなされていることが確認された。

(2)労働関係法令遵守、雇用環境維持向上	<p>▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 職員の勤務時間を適正に管理するため「勤怠管理システム」を導入し、法令遵守に結び付けた。 ▼ 職員の健康管理に係る取組みとして、産業医を導入した。 ▼ 法令に基づき、時間外労働または休日労働させる場合の労使協定(36協定)を労働者と締結し、労働基準監督署に届出を行った。 ▼ 職員の勤務形態、家族状況等に応じて年金保険、医療保険に加入。また、必要に応じて適正に届出等を実施した。 ▼ 常勤職員のほか1年以上の有期雇用者に対して、1年に1回定期健康診断を実施したほか、再検査の費用負担を行った。 ▼ 正規職員を新たに雇用する際、現在の非正規職員から希望者を募り、内部登用試験を実施した。 ▼ 全ての労働者を労災保険に、条件を満たす労働者を雇用保険に加入した。 ▼ 法人として全ての常勤職員を対象にストレスチェックを実施した。 ▼ 業務内容に応じたシフト制勤務と、職員間連携を徹底することで時間外労働時間軽減に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・労働関係法令に関する理解を深めると共に、雇用環境の維持向上に向けた取組を行うことができた。 ・新型コロナウイルス感染症対応では、職場環境の整備と、可能な限り出勤時間を調整する取組により、安心して仕事ができるよう努めた。 	<table border="1"> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> <tr> <td colspan="4">労働関係法令遵守のための取組が積極的に行われている。独自にストレスチェックを行うなど、雇用環境の維持向上に向けた取組も進められていることは評価できる。今後とも労働関係法令遵守及び雇用環境の維持向上に努めること。</td> </tr> </table>	A	B	C	D	労働関係法令遵守のための取組が積極的に行われている。独自にストレスチェックを行うなど、雇用環境の維持向上に向けた取組も進められていることは評価できる。今後とも労働関係法令遵守及び雇用環境の維持向上に努めること。									
A	B	C	D														
労働関係法令遵守のための取組が積極的に行われている。独自にストレスチェックを行うなど、雇用環境の維持向上に向けた取組も進められていることは評価できる。今後とも労働関係法令遵守及び雇用環境の維持向上に努めること。																	
(3)施設・設備等の維持管理業務	<p>▽ 総括的事項(利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 日常的に点検を行い、常に最良の状態を保つよう管理した。また、職員間の情報共有により、危険箇所の早期発見、事故の未然防止に努め、利用者の安全確保につなげた。 ▼ 拾得物の取扱いについては、対応フローを作成し適正な取扱いを行った。 ▼ 保険は管理業務仕様書にある内容を補償するものに加入し不測の事態に備えた。 <p>▽ 施設・設備等の維持管理(清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 再委託により実施する業務については、専門業者に依頼し、適切な監督と履行検査を行った。 ▼ 備品管理については、日常的に点検、清掃等を行い、故障が著しい備品については随時更新するなどし、維持管理に努めた。 ▼ 敷地内の植木植栽物については、美観の保持、安全面、近隣住民への配慮等の点から、適切な維持管理を行った。 ▼ 駐車場内での事故等に十分注意し、利用者以外の進入がないよう、車両の監視、誘導等に努めた。 ▼ 施設・設備等の不備や故障については、速やかに修繕を行った。 <p><修繕の実施></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>修繕内容</th> <th>修繕完了日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>除雪機修繕</td> <td>1/26</td> </tr> </tbody> </table>		修繕内容	修繕完了日	1	除雪機修繕	1/26	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に施設及び設備について機能全般の良好な維持に努め、市民が利用しやすい施設運営を行った。 ・法令に基づき、点検・検査を実施し、施設機能の良好な維持管理を行った。 ・日常的に、施設利用者に対しても利用上の注意や安全確認について留意するよう促した。 ・軽微な修繕については、札幌市の承認を得て実施した。 	<table border="1"> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> <tr> <td colspan="4">専門業者への再委託を含め、施設全体が良好に維持管理されている。引き続き、市民サービスの向上及び施設の安全性に配慮した維持管理を行うこと。</td> </tr> </table>	A	B	C	D	専門業者への再委託を含め、施設全体が良好に維持管理されている。引き続き、市民サービスの向上及び施設の安全性に配慮した維持管理を行うこと。			
	修繕内容	修繕完了日															
1	除雪機修繕	1/26															
A	B	C	D														
専門業者への再委託を含め、施設全体が良好に維持管理されている。引き続き、市民サービスの向上及び施設の安全性に配慮した維持管理を行うこと。																	

	<p>▽ 防災</p> <p>▼ 防災計画を策定するとともに、利用者及び職員の参加による防災研修及び訓練を実施した。</p> <p>第1回 10/26(参加6名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防設備の使用方法の確認 ・通報・消火・避難誘導の自主訓練 <p>第2回 3/17(参加5名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通報・避難誘導の自主訓練 ・救急対応、AEDの使用方法 	<p>・災害や利用者の傷病に対する対応について、劇場の消防設備の使用方法や効果的な避難誘導、消火方法、AEDの使用方法を確認し、不測の事態に備えた。</p>	<p>多くの子どもたちが利用する施設であるという施設の特徴を踏まえ、防災研修・訓練等について、引き続き、日頃の備えを行うこと。</p>																									
<p>(4)事業の計画・実施業務</p>	<p>▽ 児童文化の普及及び子どもの健全育成のための公演・展示会・講座等の開催に関する業務</p> <p>【公演事業】</p> <p>▼ 令和3年度中止となった「こぐま座開館45周年記念『サイトスペシフィック・パフォーマンス～コロボックル・シンパヤ～』」を6月に実施した。中島公園内の各所に屋外ステージを設置し、さまざまな演目を移動しながら観劇するという事業内容は、参加者にコロナ禍の閉塞感を忘れさせ、純粋に劇と自然と人とのふれあいを楽しむ機会とすることができ、好評を得ることができた。</p> <p>▼ 野外での公演「あおぞらキッズシアター」「ほしぞらキッズシアター」を令和4年度も引き続き実施した。さらに、こぐま座と中島児童会館の共同で「あおぞらキッズシアター拡大版『ピクニックシアター』」を実施した。公演に工作会やワークショップを加え、コロナ禍でも安全に参加・観劇できるスタイル、施設の立地や自然環境等を存分に生かした事業として参加者から好評を得ることができた。</p> <p>▼ 12月に公益財団法人北海道演劇財団と協働で「北のおばけ箱2」制作・公演を行った。舞台美術を児童デイサービスに通う子どもたちと出演者たちと共に制作し、劇中に手話通訳者が通訳をしながら演じる「ムーブアラウンド方式」を取り入れた。また、2月には令和3年度に制作した「北のおばけ箱1」を再演した。再演にあたり、字幕の追加、ムーブアラウンド方式の手話通訳の導入、美術制作を行った児童デイサービスの子どもたちの出演など、前回よりさらにユニバーサルな舞台を披露することができた。</p> <table border="1" data-bbox="383 1366 981 1973"> <thead> <tr> <th>主な公演事業</th> <th>ステージ数(回)</th> <th>観客数(人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>GW特別企画「～被災地のこどもたちへ笑顔を届けよう～バラ☆バラ☆バラエティーショー」</td> <td>6</td> <td>341</td> </tr> <tr> <td>やまびこ座プロデュース児童劇公演</td> <td>3</td> <td>170</td> </tr> <tr> <td>経験者のための人形劇クリニック発表公演</td> <td>2</td> <td>113</td> </tr> <tr> <td>ほしぞらキッズシアター あおぞらキッズシアター</td> <td>9</td> <td>422</td> </tr> <tr> <td>「初心者のための人形劇講座」 発表会</td> <td>1</td> <td>67</td> </tr> <tr> <td>夏の特別公演</td> <td>5</td> <td>324</td> </tr> </tbody> </table>	主な公演事業	ステージ数(回)	観客数(人)	GW特別企画「～被災地のこどもたちへ笑顔を届けよう～バラ☆バラ☆バラエティーショー」	6	341	やまびこ座プロデュース児童劇公演	3	170	経験者のための人形劇クリニック発表公演	2	113	ほしぞらキッズシアター あおぞらキッズシアター	9	422	「初心者のための人形劇講座」 発表会	1	67	夏の特別公演	5	324	<p>・コロナ禍でも各劇団と協働し、事業を積極的に行った。11月のガイドライン改定後は、各劇団と協働し、多くの市民に観劇や文化芸術体験の機会を提供することができた。</p> <p>・公演事業では、劇場で実施する人材育成事業などに参加した子どもたちが、いきいきと舞台表現活動に取り組んだ。子どもたちにさまざまな活躍の場を提供したことで、日々の活動にも意欲的に取り組む様子が見られた。</p>	<table border="1" data-bbox="1236 470 1449 515"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table> <p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止により収容人数等に制限があったことも影響し、利用者数の合計等で指定管理者が自ら設定した目標数値の達成はできなかった。しかしながら、障がい児との舞台芸術制作等、新しい文化芸術を構築し参加者からも支持を得たことは評価できる。</p> <p>今後も関係劇団等との連携を図りながら、施設の設置目的達成に寄与する児童劇等の制作を行うこと。</p>	A	B	C	D
主な公演事業	ステージ数(回)	観客数(人)																										
GW特別企画「～被災地のこどもたちへ笑顔を届けよう～バラ☆バラ☆バラエティーショー」	6	341																										
やまびこ座プロデュース児童劇公演	3	170																										
経験者のための人形劇クリニック発表公演	2	113																										
ほしぞらキッズシアター あおぞらキッズシアター	9	422																										
「初心者のための人形劇講座」 発表会	1	67																										
夏の特別公演	5	324																										
A	B	C	D																									

主な公演事業	ステージ数(回)	観客数(人)
札幌国際人形劇フェスティバル	2	126
座・競演～次世代へ継ぐ伝統人形芝居～	5	463
「元町北小学校アウトリーチ事業」発表会	3	95
こども舞台体験プログラム ふれアートミニ発表会	1	50
第51回札幌人形劇祭 ※こぐま座と共催	6	607
人形浄瑠璃講習会・義太夫講習会 合同発表会	1	46
ざ・にんぎょうじょうりゅう クラス発表会	1	47
さっぽろパペットシアタープロジェクト 「北のおばけ箱2」	3	384
第51回札幌人形劇祭 受賞記念公演	1	127
第30期やまびこ座遊劇舎発表会	1	134
さっぽろパペットシアタープロジェクト 「北のおばけ箱」	3	480
劇☆やまびこ座YOUTH・ 児童演劇講習会発表会	1	151
世界人形劇の日 「札幌市児童会館 人形劇フェスティバル」	2	335

【人材育成事業】

▼ 「初心者のための人形劇講座」は2年ぶりに全て対面式で開講し、2劇団が誕生した。また、財団内の職員研修「人形劇ゼミナール」(人形劇指導者向け講習会)からも新たな劇団が誕生するなど、職員の育成の観点からも大きな成果があったと言える。

▼ これまで、やまびこ座・こぐま座で開講してきた「経験者のための人形劇講座」の一環として、若年層の人形劇団を対象とした「パペットカレッジ」を実施した。若い世代の劇団の育成、継続的な活動を支援することを目的とし、大学生、社会人になっても自立した劇団活動を行い、良質な作品づくりに取り組める力をつけられるように支援をすることが、劇場の公演活動を担う人材を育てるために必要である。

▼ 人形浄瑠璃講習会、義太夫講習会では、「さっぽろ人形浄瑠璃芝居あしり座」と協働し、札幌における伝統文化の担い手を育成した。

・新たな人材や劇団の育成に加えて、次世代の指導者育成につながる事業を実施することができた。

児童文化の普及や子どもの健全育成、担い手の育成に尽力していると評価できる。今後も安定的かつ魅力的な公演を提供できるよう、新規劇団の育成に関する支援を継続すること。

主な事業	(延べ人数)	
	回数	参加人数
札幌国際大学 人形劇ワークショップ	2	110
初心者のための人形劇講座	14	76
経験者のための人形劇講座	19	103
人形浄瑠璃講習会	17	162
義太夫講習会	14	249
義太夫特別講習会	3	33
児童演劇講習会	20	164
障害者等による文化芸術活動推進事業 「人形浄瑠璃ワークショップ」	1	15
障害者等による文化芸術活動推進事業 「文化の扉を開こう！」	11	103
計	101	1,015

【子どもの舞台表現活動の推進】

▼ 通年事業として伝統文化関連事業(ざ・にんぎょうじょうりユースクラス)、演劇関連事業(やまびこ座遊劇舎、劇☆やまびこ座YOUTH)を実施した。単発の体験事業としては、こども舞台体験プログラム「ふれアート」を実施し、専門の講師による舞台体験機会を実施した。

▼ 子どもたちの体験機会が減少している現代で、こぐま座、やまびこ座と札幌市内の児童会館が連携し、「児童会館人形劇クラブ活動」を継続して行ってきたことで、少しずつ児童会館での人形劇活動が増えてきている。令和4年度は、国際人形劇連盟(UNIMA)が定める『世界人形劇の日』に合わせ、第1回目となる『札幌市児童会館人形劇フェスティバル』を実施した。札幌市内の児童会館人形劇クラブの子どもたちが一堂に会し、人形劇の連続公演や交流会を実施した。子どもたちのいきいきとした姿や表現の可能性を広く発信する機会とし、これまでの取組から一歩進み、より広がりを持った事業展開をすることができた。

▼ 公益財団法人北海道演劇財団と協働で障がいのある子どもたちと創る「北のおぼけ箱2」制作・公演を行った。児童デイサービスに通う子どもたちとやまびこ座・こぐま座で育成してきた子どもたちと共に制作し、劇中に手話通訳者が通訳をしながら演じる「ムーブアラウンド方式」を取り入れユニバーサルな舞台を披露することができた。やまびこ座・こぐま座が関わってきた子どもたちの成長が顕著に表れた舞台となり、観客に感動を与える事業となった。

・劇場が取り組んできた人形劇の裾野拡大、人材育成の成果を発揮することができた。

子どもが人形劇等の舞台芸術等に触れるきっかけとなる体験プログラム事業及び児童会館での人形劇指導は、人形劇の裾野の拡大において有意義である。加えて、より本格的に人形劇等の制作等を学ぶことができる通年事業は、青少年の健全育成として相応しい。

また、障がい児との舞台芸術制作に取り組み、より多くの子どもが文化体験の機会を享受できるようにしたことは評価できる。

引き続き、障がいの有無に関わらず、より多くの市民が文化芸術に触れられるよう努めること。

▼ 令和4年度は新たに、劇場の近隣小学校の特別支援学級との人形劇創作活動に取り組んだ。今後重点的に取り組む社会課題の解決に向けた取組の一つとして、その足がかりとすることができた。

(延べ人数)

	講座名	回数	参加人数
1	やまびこ座遊劇舎	30	323
2	劇☆やまびこ座YOUTH	19	182
3	ざ・にんぎょうじょうりユースクラス	27	327
4	こども舞台体験プログラム「ふれアート」	5	115
5	人形劇クラブの指導・育成	136	1,082
	計	217	2,029

【地域との共生及びアウトリーチ活動】

▼ 地域連携アウトリーチ事業では、元町北小学校と札幌国際大学から依頼を受け、指導者を派遣した。また、「砂川人形劇指導」では道内他劇場施設での人形劇指導を実施し裾野拡大に取り組んだ。

▼ 地域の町内会や企業、団体と連携し例年実施していた夏まつりは、実施時期に新型コロナウイルス感染拡大傾向が強まったことで、当初予定していた規模を大幅に縮小したが実施できた。地域に愛され地域に根付いた施設として、今後も地域と協働する事業を継続していく。

▼ 劇場の公演活動の充実や劇団支援、地域連携の活性化を目的として協賛金を募る「事業サポーター制度」を実施し、11件の個人協賛と、3件の企業協賛を得ることができた。

▼ 令和3年度受託し制作したアイヌ文化の理解を促進するための人形劇を、令和4年度は北海道内全域での巡回公演として依頼を受け、幼稚園や図書館等、21回の上演を行った。令和3年度からの関わりと実績を踏まえた依頼であり、これまで劇場が行ってきた業績が評価された結果ともいえる。役者には劇場で育成を行ってきた「パペットカレッジ」の大学生を中心とした若いメンバーを起用することで活躍の場を提供し、人形劇に対するより深い興味や意欲の向上を引き出すことができた。活動を通して成長していく若者たちの姿を頼もしく思うと同時に、これからの活発な活動が期待できる。

【社会貢献事業の取組】

▼ 継続して取り組んできた福島県への継続支援活動は、コロナ禍の影響で当初の計画どおりとはいかなかったが、地元の方の要望もあり、期間を短くし現地に足を運び地域交流イベント等を実施することができた。東日本大震災から12年が経ち、支援の形も少しずつ状況に応じて変化を続けてきた。この事業を通しつながりができた様々な協力団体とは、今後また違う形で連携を続け新たな事業展開を模索していける可能性がある。

・コロナ禍であっても子どもたちの文化体験機会を守りたいと、学校教育の現場から要望が多く寄せられた。

・市民と共につくる劇場、地域に根差した劇場運営の観点から、一定の成果が表れていると捉え、今後もこの取組を継続、強化していく。

・今期の指定管理では公的助成や民間資金の活用による発展的な事業展開、財源確保を提案しており、今回の業務受託は劇場の専門性を生かした形で財源の確保につながった。

・子どもたちが明るい未来を描けることを願い協働してきた様々な関係団体と共に、今後は発展的な事業を実施できるよう取り組みたい。

引き続き、地域と連携した多くの行事を通じて、子どもから大人までの多くの市民が劇場に集い、地域に開かれた親しみある劇場でありつづけること。

	<p>【展示室の活用およびその他】</p> <p>▼ 読み語りの会を実施するなど、市民ボランティアの活躍の拠点として図書コーナー等を活用し、地域の子どもとその保護者に来館いただく契機とすることができた。</p> <p>▼ 北海道新聞販売所と協働で、「夏のこどもぬりえ大会」(8月23日～26日、来場90名)「冬休み子どもお絵かき大会」(1月17日～20日、来場139名)の作品展を実施した。この取組をきっかけに次年度以降さらなる事業連携へつなげていきたい。</p> <p>▼ こぐま座と共同で人形劇観劇スタンプラリーを実施した。 カード発行枚数:5,838枚(やまびこ座2,936枚、こぐま座2,902枚)</p> <p>▽ 子どもに関わる舞台活動の拡充に関する情報収集・調査研究・立案及び提供に関する業務</p> <p>▼ 関係機関の情報収集を行い、資料の整理を随時行った。市民からの要望に応じ、情報提供できる体制を作った。</p> <p>▼ 北海道庁より「アイヌ文化を題材とした人形劇巡回公演」依頼を受け、人形劇上演を全道21ヶ所で実施した。劇場のスキルを生かした関係機関との連携により発展的な事業展開をすることができた。</p> <p>▽ 劇団育成支援に関する業務</p> <p>▼ 劇団支援策として「札幌市こどもの劇場支援事業」を実施した。各劇団のホール・研修室・美術工作室・会議室利用について、使用料の一部を負担した。 ※申請件数221件、利用区分件数758件</p> <p>▼ 12月に利用者説明会を開催した。施設側から新型コロナウイルス感染症対策について説明し、劇団側と情報交換や要望を確認した。</p> <p>▼ 読み語りの会登録者9名により、週1回施設内で読み聞かせを行った。(41回315名参加)</p> <p>▽ 人形劇等に関する指導、相談業務</p> <p>▼ 人形劇、演劇等の制作のための技術的指導ができる職員を配置し、日常的に人形劇や児童劇等について、指導、助言ができる体制作りを努めた。</p> <p>▼ 公演時や稽古時等において、適宜アドバイスを行い、劇団側と協働してより良い作品づくりを行った。また、初心者のための人形劇講座を実施し、より多くの市民が子どもの文化に携わり、担い手として育っていけるように環境を整えた。</p>	<p>・地域の企業と協働で展示室の活用を図ることができた。今後も継続していくことで連携の強化を進めていきたい。</p> <p>・北海道の地域に伝わる民話を題材とすることで、子どもたちに郷土の歴史や文化への理解を深めてもらう機会とすることができた。</p> <p>・劇団の育成のため、今後も継続して支援活動に取り組んでいく。</p> <p>・運営協議会、利用者説明会、利用者アンケート等を実施し、劇団側に十分な説明や意見交換を行うことで、施設の利用と協力体制を強化することができた。</p> <p>・市民ボランティアとの協働事業は、感染症対策を講じつつ実施した。市民ボランティアと市民の交流と自己実現の場とすることができた。</p> <p>・利用者にとって丁寧にかかわることが制作活動の支援となっている。今後も劇団に対し、上演や作品創造に関するアドバイス、サポートをしていくために指導者、舞台スタッフの育成に取り組む。</p> <p>・人材育成事業等の広いニーズに臨機応変に対応できるような体制を整えることが課題である。</p>	<p>関係団体等の調査や情報収集、資料の公開等、舞台活動の拡充に取り組まれており、評価できる。</p> <p>引き続きプロデュース人形劇をはじめ、市民ニーズを捉え、人形劇文化の発信に努めること。</p> <p>子どもたちに魅力的な舞台芸術の鑑賞機会を提供するためにも、劇団育成は極めて重要であることから、劇団と連携しながら、育成支援を継続すること。</p> <p>市民ボランティアとの協力関係が構築されており、共にサービスの向上に努めていることは評価できる。</p> <p>引き続き、やまびこ座にしかできない継続性のある専門的な指導に取り組むこと。</p>
--	---	---	--

(5)施設利用に関する業務	<p>▽ 利用件数等</p> <p>▼ 公演回数・観客数 (回・人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R3年度実績</th> <th>R4年度計画</th> <th>R4年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>上演回数</td> <td>147</td> <td>200</td> <td>203</td> </tr> <tr> <td>出演者数</td> <td>5,827</td> <td></td> <td>8,379</td> </tr> <tr> <td>観客数</td> <td>7,892</td> <td></td> <td>13,377</td> </tr> <tr> <td>上演1回当たりの観客数</td> <td>54</td> <td></td> <td>66</td> </tr> </tbody> </table> <p>▼ 室別利用状況 (件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th></th> <th>R3年度実績</th> <th>R4年度計画</th> <th>R4年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">ホール</td> <td>件数(件)</td> <td>438</td> <td>700</td> <td>649</td> </tr> <tr> <td>人数(人)</td> <td>13,570</td> <td>28,000</td> <td>21,316</td> </tr> <tr> <td>稼働率(%)</td> <td>72.4</td> <td></td> <td>75.1</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">会議室</td> <td>件数(件)</td> <td>220</td> <td>400</td> <td>362</td> </tr> <tr> <td>人数(人)</td> <td>1,208</td> <td>2,000</td> <td>2,460</td> </tr> <tr> <td>稼働率(%)</td> <td>36.4</td> <td></td> <td>41.9</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">研修室</td> <td>件数(件)</td> <td>275</td> <td>550</td> <td>480</td> </tr> <tr> <td>人数(人)</td> <td>3,075</td> <td>7,600</td> <td>5,705</td> </tr> <tr> <td>稼働率(%)</td> <td>45.5</td> <td></td> <td>55.6</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">美術工作室</td> <td>件数(件)</td> <td>384</td> <td>550</td> <td>534</td> </tr> <tr> <td>人数(人)</td> <td>3,683</td> <td>7,000</td> <td>4,910</td> </tr> <tr> <td>稼働率(%)</td> <td>63.5</td> <td></td> <td>61.8</td> </tr> <tr> <td>ロビー等</td> <td>人数(人)</td> <td>4,584</td> <td>10,000</td> <td>8,605</td> </tr> <tr> <td>研修見学</td> <td>人数(人)</td> <td>54</td> <td>400</td> <td>94</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">合計</td> <td>件数(件)</td> <td>1,317</td> <td>2,200</td> <td>2,025</td> </tr> <tr> <td>人数(人)</td> <td>26,174</td> <td>55,000</td> <td>43,090</td> </tr> </tbody> </table> <p>▽ 不承認0件、取消し0件、減免0件、還付0件</p> <p>▽ 利用促進の取組</p> <p>▼ 主催事業、主催公演の際、他の公演、事業への呼びかけを行い、宣伝等に努めた。</p>		R3年度実績	R4年度計画	R4年度実績	上演回数	147	200	203	出演者数	5,827		8,379	観客数	7,892		13,377	上演1回当たりの観客数	54		66			R3年度実績	R4年度計画	R4年度実績	ホール	件数(件)	438	700	649	人数(人)	13,570	28,000	21,316	稼働率(%)	72.4		75.1	会議室	件数(件)	220	400	362	人数(人)	1,208	2,000	2,460	稼働率(%)	36.4		41.9	研修室	件数(件)	275	550	480	人数(人)	3,075	7,600	5,705	稼働率(%)	45.5		55.6	美術工作室	件数(件)	384	550	534	人数(人)	3,683	7,000	4,910	稼働率(%)	63.5		61.8	ロビー等	人数(人)	4,584	10,000	8,605	研修見学	人数(人)	54	400	94	合計	件数(件)	1,317	2,200	2,025	人数(人)	26,174	55,000	43,090	<p>・客席数の制限等が11月までであったことにより、利用人数等は目標数値には届かなかった。しかし上演回数については目標を上回ることができたことは評価できる。</p> <p>・次年度以降の劇場利用については、新規の観劇者はもちろん、劇場利用から足が遠のいてしまった市民や劇団に戻ってきていただけるようなアピールをしていく。多くの市民に安心して来館いただけるよう引き続き工夫していく。</p> <p>・施設使用承認などについては、条例に基づき、適正に処理を行った。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4">新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため貸室の利用人数に上限を設けたこともあり、利用人数等で指定管理者が自ら定めた目標を下回る項目があった。しかし、上演回数を増やし、より多くのプログラムを市民に提供したことは評価できる。今後とも、市民サービスの拡充を図るとともに、公演の魅力を増加させ、さらなる利用拡大に努めること。</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため貸室の利用人数に上限を設けたこともあり、利用人数等で指定管理者が自ら定めた目標を下回る項目があった。しかし、上演回数を増やし、より多くのプログラムを市民に提供したことは評価できる。今後とも、市民サービスの拡充を図るとともに、公演の魅力を増加させ、さらなる利用拡大に努めること。			
		R3年度実績	R4年度計画	R4年度実績																																																																																																							
上演回数	147	200	203																																																																																																								
出演者数	5,827		8,379																																																																																																								
観客数	7,892		13,377																																																																																																								
上演1回当たりの観客数	54		66																																																																																																								
		R3年度実績	R4年度計画	R4年度実績																																																																																																							
ホール	件数(件)	438	700	649																																																																																																							
	人数(人)	13,570	28,000	21,316																																																																																																							
	稼働率(%)	72.4		75.1																																																																																																							
会議室	件数(件)	220	400	362																																																																																																							
	人数(人)	1,208	2,000	2,460																																																																																																							
	稼働率(%)	36.4		41.9																																																																																																							
研修室	件数(件)	275	550	480																																																																																																							
	人数(人)	3,075	7,600	5,705																																																																																																							
	稼働率(%)	45.5		55.6																																																																																																							
美術工作室	件数(件)	384	550	534																																																																																																							
	人数(人)	3,683	7,000	4,910																																																																																																							
	稼働率(%)	63.5		61.8																																																																																																							
ロビー等	人数(人)	4,584	10,000	8,605																																																																																																							
研修見学	人数(人)	54	400	94																																																																																																							
合計	件数(件)	1,317	2,200	2,025																																																																																																							
	人数(人)	26,174	55,000	43,090																																																																																																							
A	B	C	D																																																																																																								
新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため貸室の利用人数に上限を設けたこともあり、利用人数等で指定管理者が自ら定めた目標を下回る項目があった。しかし、上演回数を増やし、より多くのプログラムを市民に提供したことは評価できる。今後とも、市民サービスの拡充を図るとともに、公演の魅力を増加させ、さらなる利用拡大に努めること。																																																																																																											
(6)付随業務	<p>▽ 広報業務</p> <p>▼ 独自ドメインを取得し、よりわかりやすいホームページURL (https://koguyama.jp)に変更した。ウェブアクセシビリティを考慮し、誰もが利用しやすいホームページを目指した。ページビュー数は244,022件で、前年度比(237,314件)103%という結果になった。</p> <p>▼ 公式SNS(Twitter、Facebook、Instagram)や無料通信アプリLINEによる公演情報の発信を積極的に行い利用者の利便性向上と集客につなげることができた。</p> <p>▼ 定期的に(年6回)こどもの劇場通信(公演情報、事業案内等)、MA・SO・BO通信(子ども文化の発信)をやまびこ座と共同で発行し、市内公共施設、関係機関、児童会館等、及びやまびこ座近隣小学校5校へ配布した。また、公演ごとに来館者へ配布した。</p>	<p>・広報業務は、劇場の認知度向上と観客数に直結する重要なものであるとの認識のもと、常に情報発信を行っている。令和4年度はSNS等での事前の情報発信を適宜行い、公演等の集客につなげる流れを確立することができた。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4">利用者のニーズに合わせ、あらゆる広報手段を活用して、積極的に情報発信をおこなっている。引き続き、紙媒体、ホームページ、SNS、メール通信それぞれの強みを活かした情報発信の手法を検討し、効果的な広報活動に努めること。</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	利用者のニーズに合わせ、あらゆる広報手段を活用して、積極的に情報発信をおこなっている。引き続き、紙媒体、ホームページ、SNS、メール通信それぞれの強みを活かした情報発信の手法を検討し、効果的な広報活動に努めること。																																																																																																			
A	B	C	D																																																																																																								
利用者のニーズに合わせ、あらゆる広報手段を活用して、積極的に情報発信をおこなっている。引き続き、紙媒体、ホームページ、SNS、メール通信それぞれの強みを活かした情報発信の手法を検討し、効果的な広報活動に努めること。																																																																																																											

	<p>▼ 公演情報を各報道機関等に提供する等、宣伝活動に努めた。また、チラシ・ポスターを作成し、市民への配布のほか、地下鉄駅や劇場館内への掲示を行い周知を図った。</p> <p>▼ 公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会発行のさっぽろ・こども情報誌「あそぼ」(市内全小学生配布)に、公演情報を毎号掲載した(年6回各10万部発行)。</p> <p>▽ 引継ぎ業務 (前期からの継続指定のため、引継ぎ業務無し)</p>	<p>・ウェブ予約が浸透したことで予約状況を事前に把握でき、効率的に広報等の対応を進めることができた。予約受付時や劇場通信等の広報物にキャンセル時の連絡を継続してお願いしたこと、前年度に比べて当日キャンセルの件数が減少した。今後も利用マナー向上のため、必要な呼びかけ等を行っていく。</p>												
2 自主事業その他														
▽ 自主事業														
<p>▼ 物品販売事業</p> <p>市民サービスの一環として、ハンドパペットやオリジナルグッズなどの販売を各人形劇公演時に実施。集客の一助やリピーターの確保などにつなげ、公演の活性化を図った。 実施期間: 令和4年4月1日～令和5年3月31日 販売商品: ①ハンドパペット: 金額 500円～700円 ②オリジナルグッズ: 金額 50円～1,785円 【販売実績】 ①ハンドパペット: 販売個数 65個 売上額 47,200円 ②オリジナルグッズ: 販売個数 1,166個 売上額 225,250円 合計: 販売個数 1,231個 売上額 272,450円</p> <p>▼ 飲料販売事業</p> <p>劇場に公演観劇に来られる来館者や、稽古や舞台仕込みで利用される劇団利用者などに対して飲料の清涼飲料水の販売を行い、市民サービスの向上を図った。 実施期間: 令和4年4月1日～令和5年3月31日 販売商品: 清涼飲料水110円～180円 【販売実績】 販売本数: 清涼飲料水 2,697本 収入額: 36,933円(使用料、電気代相当額)</p> <p>▽ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等</p> <p>第三者に対する業務委託、物品の調達などを行うにあたり、札幌市内の企業などを積極的に活用した。</p>	<p>・物品販売業務では、前年度の売上額を上回ることができた。引き続き市民の声からニーズを察知し、商品開発を進めていく。</p> <p>・飲料販売事業の売上本数は、夏期の公演での飲料水需要が高かったこと、再開後新型コロナウイルス感染症の感染状況が収束し、来館者数が回復するのに比例して売上本数が上がったことから、前年度を上回ることができた。</p> <p>・引き続き、札幌市内の企業及び福祉施設への配慮を行う。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4">子どもが児童劇及び人形劇等の活動に対して興味を持つ契機となる事業である。引き続き、来館者のニーズを取り入れながら、事業展開を行うこと。</td> </tr> <tr> <td colspan="4">引き続き、市内企業及び福祉施設への配慮をおこなうこと。</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	子どもが児童劇及び人形劇等の活動に対して興味を持つ契機となる事業である。引き続き、来館者のニーズを取り入れながら、事業展開を行うこと。				引き続き、市内企業及び福祉施設への配慮をおこなうこと。			
A	B	C	D											
子どもが児童劇及び人形劇等の活動に対して興味を持つ契機となる事業である。引き続き、来館者のニーズを取り入れながら、事業展開を行うこと。														
引き続き、市内企業及び福祉施設への配慮をおこなうこと。														

3 利用者の満足度

▽ 利用者アンケートの結果			A	B	C	D
実施方法	観客用アンケート、利用者(劇団)アンケート、事業別参加者アンケートをそれぞれ作成し、令和4年4月～令和5年3月の期間で実施した。(※アンケート方法については、来館者にアンケート用紙を配付し回収した。任意記名方式。)	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に総合満足度や職員の接遇に関して、高い評価をいただき目標を達成した。 ・劇場における清掃や新型コロナウイルス感染症対策について、清潔な施設で安心して利用できたという声を多くいただくことができた。 今後も市民のニーズを把握し、観劇する環境をソフト・ハード両面で改善を図っていく。 	観客・利用者(劇団)・事業別参加者と3種類のアンケートを実施しており、それぞれのニーズを把握し、よりよい施設運営に反映させようと努力しており、評価出来る。			
結果概要	アンケート結果を集約し、利用者の意見、要望、苦情、ニーズ等を把握し、施設設備、業務等の改善に反映させるよう努める。なお、回収したアンケートについては、札幌市個人情報保護条例に基づき、取り扱いに十分留意し、保管整理している。					
利用者からの意見・要望とその対応	<p>【観客用アンケート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 回収枚数2,129枚(目標1,200枚を達成) ▼ 回答者の年代は、子育て世代の20～40代の回答が前年度より上がり19.5%となった。41～60代の回答が最も多く24.1%となり、三世代に渡り劇場を利用していることがわかった。 ▼ 公演情報の取得方法では、「友人・知人」が最も多く(26.2%)、次いで「劇場ホームページ」(22.4%)、「ポスター・チラシ」と「劇場通信」(15%)となった。ウェブ予約が定着したことで劇場ホームページを確認する機会が増えたこと、公演の際に配布する「劇場通信」や「チラシ」、地下鉄掲示板の「ポスター」で気になったものを観てみようという機運が高まったことが考えられる。 ▼ 観劇環境については、どの項目も4.5以上という高い評価を得ることができた。 <p>【利用者(劇団)アンケート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 回収22枚(目標20枚を達成) ▼ 支援体制(施設的环境、サポート体制)及び、施設サービス(利用のしやすさ、職員の対応)の項目については引き続き高い評価を得ることができた。施設の利用申込方法や手続きの仕方についても前年度の評価を上回ることができた。 <p>【事業別参加者アンケート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 主催事業10事業についてアンケートを実施した。 ▼ 事業内容及び職員の対応や講師について、全ての参加者から高評価をいただき、満足度も高かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を得る手段としてSNSの割合を高め、メインターゲットである子育て世代の市民に情報が届くよう引き続き様々な方法を検証していく。SNSの割合を従来のホームページや紙媒体の割合にまで近づけていくことで、観劇や利用を検討する市民が増えるものとする。 ・劇団アンケートの結果から、職員の対応や支援体制について高い評価をいただいた。今後も引き続き、利用者と良好な関係を築く中で新たなニーズを引き出し、施設運営に生かしていきたい。 ・一様に満足度は高く、ニーズに合致した事業展開と読み取れる。今後も職員・講師間での情報共有、検討を行い、より良い事業実施につなげていきたい。 	アンケートの結果は要求水準を達成しており、観客、利用者、事業参加者のほぼ全てが職員の対応や事業内容に対して満足していることが分かる。これは指定管理者の努力の結果であると考えられる。引き続きサービス水準を維持するよう努めるとともに、施設利用者の意見を把握し、管理運営に活かすこと。			

4 収支状況

▽ 収支

(千円)

項目	R4計画	R4決算	差(決算-計画)
収入	70,690	79,555	8,865
指定管理業務収入	70,430	79,246	8,816
指定管理費	46,053	47,510	1,457
利用料金	5,000	6,593	1,593
その他	19,377	25,143	5,766
自主事業収入	260	309	49
支出	70,481	80,535	10,054
指定管理業務支出	70,299	80,486	10,187
自主事業支出	182	49	▲ 133
収入-支出	209	▲ 980	▲ 1,189
利益還元	78	0	▲ 78
法人税等	0	0	0
純利益	131	▲ 980	▲ 1,111

▽ 説明

▼ 利用料金収入は、施設の臨時休館等がなかったことや劇団等の活動が回復してきたことにより、計画時の予定額を上回ることができた。

▼ その他収入のうち、受取助成金が当初予定を下回ったが、人形劇巡回公演業務を新たに請け負ったことで企画事業収益が増収となったことから計画時の予定額を上回った。

▼ 指定管理業務支出は、新規で請け負った事業に係る旅費交通費や消耗品費、役務費が必要となったことから、計画時の予定額を上回った。

▼ 自主事業は、劇場オリジナルグッズの物品販売と自動販売機による飲料販売を行い好評を得た。特に飲料販売は、来館者数が回復するのに比例して売上本数が上がった。

・令和5年度以降も指定管理業務に係る収支のバランスを考慮し、安定的な運営をしていきたい。

A	B	C	D

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のための人数制限やプログラムの変更等により助成金の交付が当初の見込みより少なくなったため、収入が減少し純利益がマイナスになった。次年度以降も引き続き、安定的な運営に向け、改善を続けること。

<確認項目> ※評価項目ではありません。

▽ 安定経営能力の維持

▼ 当団体の財務状況等は、各事業実施時において収支バランス等を常に把握することで、将来へ向けた安定経営能力は選定時より向上している。

適 不適

▽ 個人情報保護条例、情報公開条例、行政手続条例、オンブズマン条例及び暴力団の排除の推進に関する条例への対応

▼ 各条例の規定に則り、全て適切に対応した。
 ▼ 情報公開請求はありません。
 ▼ 札幌市行政手続条例に基づき適正に処理を行った。
 ▼ 協定に関する契約(第三者への委託、物品調達等)について、暴力団員や暴力団関係事業者を相手に契約を行わなかった。

適 不適

Ⅲ 総合評価

【指定管理者の自己評価】	
総合評価	来年度以降の重点取組事項
<p>令和4年度で3年が経過した新型コロナウイルス感染症の対応も、その終息に向けては期中で一進一退の状況もあったが、感染拡大防止と社会活動再開との両にらみで様々な対策を講じ、懸案であった劇場ガイドライン改訂に伴うホールの客席制限の緩和など、文化芸術活動も少しずつ日常に戻りつつある。しかし、公演の動員人数や事業規模の縮小などについては引き続き影響を受ける結果となった。</p> <p>今年度の特徴的な公演事業として、9月に実施した札幌国際人形劇フェスティバル海外特別公演「快傑ゾロ」では、3年振りに海外からチェコの専門人形劇団の招へい公演を実施した。中々触れる機会が少ない海外の人形劇の観劇機会を市民に提供することができた。同時開催で人形劇操演ワークショップも開催し、劇場で活動する市民劇団の方が参加し普段と違う人形操作を学ぶ国際交流の場となった。</p> <p>また、全国の伝統人形芝居一座が競演する「座・競演」を実施し、伝統芸能に触れる機会を提供し、その魅力を伝え古典芸能に親しんでもらう機会とした。今後も、札幌発信の新たな伝統文化の形を発信していく。</p> <p>昨年度に引き続き演劇分野の団体や専門アーティストと協働で、障がいのある子どもたちと創る「北のおぼけ箱2」の創作を行った。また、新たに文化庁の「障害者等による文化芸術活動推進事業」を受託し、近隣小学校の特別支援学級と人形劇創作活動に取り組んだ。今後重点的に取り組む社会課題の解決に向けた取組の一つとして、「文化芸術の持つ社会的包摂機能の推進」を進める足がかりとなったと言える。</p> <p>人材育成事業も、様々な市民を対象にした講座事業を中心に継続して実施してきた。その中で、児童会館7館と協働で実施している人形劇クラブが活発に活動を重ね、今年度、世界人形劇の日(3月21日)に「札幌市児童会館人形劇フェスティバル」を新規で実施した。これまで継続して取り組んできた子どもたちの人材育成が実りつつあり、国内のみならず世界に札幌の子どもたちの特徴的な活動を発信した成果は大きい。</p> <p>北海道庁から「アイヌ文化を題材とした人形劇巡回公演」の依頼を受け、昨年度制作した人形劇を道内の幼稚園等で21回の公演を実施し、文化芸術普及活動につなげた。コロナ禍で子どもたちの文化芸術に触れる機会が失われている中、今後も外部の団体や協力者と連携することで、改めて「札幌の子ども文化の取組」を広く発信していく。</p>	<p>基本方針</p> <p>『豊かな子ども文化に彩られた未来創造のまち・さっぽろ』</p> <p>やまびこ座、こぐま座が担うべき役割は、社会的情勢や行動変容に伴い変化し続けている。これまでの、多くの子どもたちが人形劇や児童劇等の生の芸術文化に触れる機会の提供を中心とした「鑑賞型事業」から、近年の生活様式の変容や人口減少に伴う子どもの数の減少によって「体験型事業」にシフトしてきた。そして、これからはSDGs(持続可能な開発目標)が示す“誰一人取り残さない”世界を目指すための共生社会の構築、多様な価値観を許容できる社会づくりに文化芸術が貢献していかなければならないと考える。子どもから大人まで様々な人間同士がお互いを理解し合い、共に創造的な活動を行うことで心豊かな活力ある社会形成につなげていく。</p> <p>これまでのやまびこ座、こぐま座が持つ創造性や、「人を育てることが文化を育てる」という考えに基づく人材育成事業を柱に、関係団体と共に公演事業、創造型事業を押し進める。また、子どもから大人まで、様々な世代への育成事業を積極的に展開することで、人形劇、児童劇等の裾野を拡げ、さらに若い世代が指導者として次の世代への育成を担う流れをつくることで、持続可能な劇場づくりを目指す。</p> <p>コロナ禍で子どもたちの体験機会が減少した昨今、劇場が取り組んできた子どもたちの文化体験機会を守る活動等が注目され、北海道内外の行政機関や公共施設、学校教育現場、地域町内会等からの相談や依頼が増えている。これまでの経験や技術、様々な文化団体・関係機関とのつながりや連携をより強固なものとし、劇場の文化芸術にかかわるスキルを生かし、札幌市内から札幌市近郊の札幌圏、全道規模へ発信を広げ強化していく。</p> <p>こぐま座・やまびこ座・中島児童会館が、子どものための専門施設として連携を強化し、それぞれの施設が持つ特性を生かしながら、人材育成事業や、全市的なイベント等を実施し、文化発信拠点として特色ある運営を目指す。</p> <p>令和5年度はやまびこ座が開館35周年を迎える。記念事業として節目のイベントも織り交ぜ、良質な舞台芸術の創造発信、継続的な文化体験機会の創出を図り、未来ある子どもたちの夢と可能性を拡げ、子ども文化の必要性を社会に伝える。</p>
<p>①新型コロナウイルス感染症対応</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策として、前年度から継続してガイドラインに基づき、人数制限の上で、検温、換気、消毒、距離の確保等の対策を劇団と協働で実施した。</p> <p>11月のガイドライン改訂後も、来場者のご理解と劇団の協力により、安心できる状況での公演を継続することができた。</p>	

②数値実績

目標である年間公演回数200回を超えて203回(前年度比138.1%)となった。コロナ禍でも公演活動を継続できるよう、外部団体等とも連携して劇団支援を行ってきた成果といえる。また、観劇者数も13,377人(前年度比169.5%)となり、コロナ禍の落ち込みからは回復傾向にあるといえる。

今後は新型コロナウイルス感染症の影響で劇場利用から離れてしまった観客に、いかに戻ってきていただくかを劇団の皆さんと共に知恵を絞っていきたい。

③収支状況

令和4年度は当初想定していたより新型コロナウイルス感染症の影響を受け、客席の人数制限や利用制約に伴う内容及び回数変更により助成金が減額されたが、新規の受託事業を請けたことによる増収もあった。しかしながら、人件費の増加、光熱水費の上昇や原材料費高騰に伴う物価上昇によって当初予算より費用がかさみ、結果としてマイナス計上となった。

【所管局の評価】

総合評価	改善指導・指示事項
<p>施設の維持管理、貸館業務、事業の実施、自主事業、及び施設の管理運営については全般的に適切な業務の執行がなされている。</p> <p>令和4年度も前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止を目的とした収容率の制限等のため、施設全体の利用者数は要求水準に届かなかったものの、障がい児との舞台芸術制作や近隣小学校の特別支援学級との人形劇創作活動を行うなど新しい文化芸術を構築し、地域の子ども達に寄り添った札幌市の児童文化の拠点施設として、その普及・促進に取り組んでいると評価できる。</p>	<p>施設の設置目的を達成するため、今後とも制作団体の育成を行っていく必要があることはもちろんのこと、より多くの利用者に多様な体験機会を提供するため、引き続き市民ニーズを検証し、より魅力的な創意工夫ある事業を展開していくこと。</p> <p>また、今後も経費節約に努めるとともに公演事業等の拡充に取り組むことで安定した管理運営を図ること。</p>